

中川村〈義務教育学校〉学びの基本計画 概要版

新たな学校の形態

中川村が目指す新たな学校の姿 学校教育が目指す子どもの姿



美しい村・中川村を再発見し、自ら楽しみ、次世代につなげる「みんなの学校」



自ら考え、判断し、行動して、人生を開拓する力を育む



新たな教育を実施するための3つの教育の柱

探究的に学ぶ

自ら問いを立て、試行錯誤しながら粘り強く学ぶことで主体性と自己肯定感を育みます。



ごちゃまぜに学ぶ

異学年や地域の人々など、多様な人々と共に学び共に生きていく力を育みます。



グローバルに学ぶ

中川村全体を学びの場とし、地球規模の視野で考え、地域で行動することで、よりよい社会を創る実践力を育みます



「ふるさと中川学(仮称)」の創設

生活科や総合的な学習の時間を活用し、中川村の魅力(豊かな自然、面白い人々、おいしい農産物、歴史・文化)を再発見することで、3つの教育の柱を実践します。



学校と地域が連携・協働して「オール中川」で教育に取り組む



学校と地域をつなぐ仕組みづくりとして、「国型コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)」を導入して学校運営に地域が参画する仕組みに移行し、学校、保護者、地域、行政、専門家など様々な立場の方が学校教育に参画できるようにします。

教育課程の編成



保育園



1~4年(基礎・基本期)



5~7年(充実期)



8,9年(発展期)

2つの小学校と1つの中学校を統合し、施設一体型の義務教育学校を設置します。義務教育9年間+保育3年間の計12年を見通した教育課程を編成を検討します。

新たな学校の教育

小・中教員の専門性が1校に集約されることで、授業力の向上が図れるとともに、子どもの育ちが共有しやすくなります。また、教科担任として自身の専門性を発揮しやすくなります。

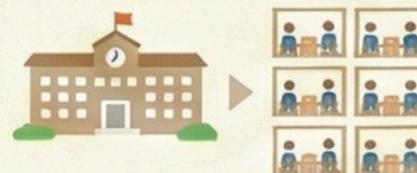


将来の学校規模(推計)

児童生徒数の推移予測



学級規模の変化



令和13年度には小・中ともにほぼ1学年1学級となる見込みです。